



2026年9月21日
製造業者への告知

R&A、USGA、PGAツアー、そしてDPワールドツアーは、統括団体と主要なツアーとの間でエリートレベルでの飛距離の増加について進行中の協議に関する最新情報を提供するために共同声明を2026年6月17日に発表しました。その共同声明の中で、R&A とUSGAは可能性のある幅広い選択肢を評価して、今後の対応を決定するために適切な時間をかけることを共有しました。特に、統括団体はPGAツアー、DPワールドツアー、そして各ツアーの個々のメンバーたちを含めた主要な利害関係者たちと、エリートレベルでの飛距離に大きな影響を与える選択肢を再検討し、テストし、そして施行するために緊密に連携していきます。これらの取り組みは、ショットメイキングの重要性を引き続き強調する一方で、エリートゴルフがあまりに一次元的になりすぎることがないことを確実にします。こうした選択肢が評価されている間、2030年1月まで標準総合距離（ODS）テスト方法が変更されることはないということも確認されました。

短期的なローカルルールひな型の検討

ゴルフクラブとゴルフボールに関する現在進行中の議論の中で、PGAツアーとDPワールドツアーは、統括団体が早ければ2028年1月に施行することができる一連のローカルルールひな型の選択肢（下記を含む）を調査・研究することを要請しました。

- (a) R&A/ USGAによってテストされたときに標準総合距離（ODS）が317ヤード以下の適合球リストに掲載されているゴルフボールのモデルの使用を要求すること。
- (b) 競技に先立ってテストされたときに特性時間（CT）が最大239マイクロ秒の適合ドライバヘッドリストに掲載されているモデルとロフトのヘッドの使用を要求すること。
- (c) すべてのクラブ（パターを除く）の認められる最大長をローカルルールひな型G-10で課せられる46インチ未満に制限すること。

検討されている短期的なローカルルールひな型は、採用された場合でも既存の用具規則の変更ではなく、適合ゴルフボールや適合ゴルフクラブの適合性に影響を与えないということにご留意ください。

検討すべき追加のアプローチ

同時に、R&AとUSGAは、PGAツアーやDPワールドツアーを含む主要な利害関係者たちと協議

の上で、エリートレベルでの将来の飛距離の増加ペースにより実質的に影響を与えることができる幅広い代替方法を検討している過程です。再確認として、2022年3月16日に発表された「関心のある分野（AoI）」でのクラブの性能特性のためのローカルルールひな型は引き続き検討の対象となっています。2023年12月の利害関係者への連絡で説明されているように、R&AとUSGAはドライバーの監視及びミスヒットよりも中央でのインパクト位置でヒットすることに報いるために規制される可能性のあるドライバーのデザインの特徴を特定するための追加の選択肢を調査することを継続します。

標準総合距離（ODS）への提出日時

2026年6月17日付の告知の中で、R&AとUSGAは2028年においては標準総合距離（ODS）テストへの変更は行わないが、最も早い標準総合距離（ODS）の変更は2030年1月に単一日時での施行となることを確認しました。

その告知を受けて、いくつかの製造業者から2026年3月17日付の「告知とコメント」で提案された適合性のための提出物の日時は有効のままであるかどうかについて問い合わせがありました。2028年には標準総合距離（ODS）の変更は行われないことから、R&AとUSGAは以前に提案した提出日時はもはや適用しないことに決定しました。

R&AとUSGAは製造業者に適時の情報を提供することの重要性を認識しており、今後5ヵ月以内に標準総合距離（ODS）テストについて再度連絡いたします。

コメント

こうした短期的なローカルルールひな型、2022年3月16日付で発表されたクラブの性能特性についてのローカルルールひな型を検討する「告知とコメント」についてのコメント、あるいはエリートレベルでの将来の飛距離の増加ペースにより実質的に影響を与え得る代替案について、2026年10月21日までにR&AのMark Grattan博士（equipmentstandards@randa.org）までコメントをお寄せください。